

激変する時代環境の中、独自の道を切り開くべく挑まれた“挑戦”と“現場”に触れる

2024年再開!現場見学「異業種・独自企業研究会」

- AI & IoTなどデジタル化、GX、科学技術本流の画期的変化の時代の日本のイノベーションを考える -

と き ・ 訪問見学先

講師とご講演テーマ

1

ファナック(株)

見学先 本社工場(山梨県・忍野村)

2024
3月7日(木)



自動化は製造の心

『スマートファクトリーの実現を目指して』

ファナック(株) 代表取締役社長 山口賢治氏

同社の原点は、1955年に、富士通が稲葉清右衛門氏を中心に創発したNC事業を、1972年、取って富士通ファナック(現ファナック)として独立させたことにある。今日までCNCをコアに工場の自動化を追求。CNC、産業用ロボット、ロボマシンの世界のリーディングカンパニー。売上げの8割以上は海外。同社の特色は低賃金を追わず貫いて来たR&Dと生産の国内一極集中、R&Dと生産の密接な連携体制、グローバルセールス&サービスネットワークを構築してきたこと。今回、山口賢治社長より、世界の工場の自動化に取り組む同社の経営及びその理念、最新の技術動向をご披露願う。



山口 賢治氏

2

三井化学(株)

見学先 袖ヶ浦センター(千葉県・袖ヶ浦市)

4月11日(木)



三井化学グループ最大の研究開発拠点

『三井化学グループが目指す企業グループ像、事業ポートフォリオの変革、事業基盤の強化』

三井化学(株) 代表取締役社長 橋本修氏

三井グループは今年、創立350周年を迎えた。同社は、2016年策定の長期経営計画「VISION 2025」の基、「事業のポートフォリオ変革」を進めて来たが、DXや環境問題などビジネス環境の変化に対応すべく、今後の指針とすべき長期経営計画「VISION 2030」を策定。ソリューション型ビジネスモデルの拡大やDXによる事業基盤強化を通じて、サステナブルな未来への挑戦を宣言。その一例として日本IBMの協力を得て生成AIを活用。R&D、市場活動革新に踏み出した。



橋本 修氏

3

三菱重工業(株)

見学先 長崎カーボンニュートラルパーク

(長崎県・長崎市) ※ご同業の場合ご参加できません

5月14日(火)



三菱重工業グループ

カーボンニュートラルパーク

2024-2025

2025-2030

2030-2035

2035-2040

2040-2045

2045-2050

2050-2055

2055-2060

2060-2065

2065-2070

2070-2075

2075-2080

2080-2085

2085-2090

2090-2095

2095-2100

『長崎カーボンニュートラルパーク』

三菱重工業(株) エナジートランジション&パワー事業本部 事業企画戦略部 主幹 堂本和宏氏

当社は、グループのエネルギー脱炭素化関連技術の開発推進拠点として「長崎カーボンニュートラルパーク」を整備。運用を開始した。具体的には、総合研究所長崎地区の水素製造、バイオマス合成燃料製造、アンモニア燃焼、CO2回収など、既存の研究施設で燃料製造や燃焼技術、CO2回収技術などを開発し、長崎造船所他で培った各種熱エネルギー機器の設計・製造など機能を活用しつつ、製品化、事業化に向けた研究開発を加速。この技術開発後、高砂水素パークでの水素ガスタービンと連携した発電実証も実施する予定である。



堂本 和宏氏

4

(株)UACJ

見学先 名古屋製造所、R&Dセンター(愛知県・名古屋)

6月7日(金)



名古屋製造所

『素材(アルミ)こそが引張る近未来』

(株)UACJ 専務執行役員 マーケティング・技術本部長 平野清一氏

アルミ圧延品の世界トップクラスの企業。2013年に、古河スカイと住友軽金属が統合。世界最大級の生産能力を誇るアルミ圧延品の生産能力は年間140万t。世界でも数少ないグローバルアルミニウムメーカー。飲料缶材から自動車用材、電子機器材、医療用材、航空機・ロケット材に至る産業分野のニーズに対応。当社の主力工場名古屋製造所とR&Dセンターを見学していただき。意外と知られていないアルミの活用事例、素材アルミの過去・現在、将来を語る。



平野 清一氏

5

ダイキン工業(株)

見学先 ダイキンテクノロジーイノベーションセンター TIC(大阪府・摂津市)

7月3日(水)



『ダイキン工業のR&D改革』

ダイキン工業(株) 常務執行役員 テクノロジー・イノベーションセンター長 米田裕二氏

売上高・技術力共に世界一の空調機器企業。フッ素製品もデュポンに次ぎ世界2位。換気・フィルタ事業もシェア世界1。約170か国に事業展開し42か国に拠点。企業スローガンは「空気で答えを出す企業」。同社のコア技術は「インバータ技術」「ヒートポンプ技術」「フッ素化学技術」。更に同社は今日の世界最先端技術(情報通信、センサー、先端材料・加工、熱・エネルギー、空気質・空間制御等)と融合。今回の訪問・見学先は2015年11月に設立された、ダイキン技術開発のコア拠点。



米田 裕二氏

6

富士フイルム(株)

見学先 先進研究所(神奈川県・足柄上部)

8月21日(水)



『富士フイルム第二の創業と不確定時代への今日の備え』

富士フイルム(株) 取締役 常務執行役員 知的財産本部管掌(TO) 柳原直人氏

同社の主力事業は「ヘルスケア」「マテリアルズ」「イメージング」。売上高2,32兆円。化学業界第3位。所属業界は「化学」「精密機器」「医療機器」「医薬品」「化粧品」「半導体・電子部品」と幅広い。2000年以降、デジタル化で売上の6割、利益の2/3を占めた写真フィルムが殆ど壊滅。自ら世界初デジタルカメラ、医療用デジタルX線画像診断装置の開発などデジタル化に対応。しかし、新社長古森氏は2004年、写真フィルムから完全撤退宣言。蓄積して来た基盤技術を核に経営革新発進。往時の王者コダックは今はない。



柳原 直人氏

チエアマナ



鈴木一義氏

(独)国立科学博物館
前 産業技術史資料情報センター長
ものづくり日本大賞選考委員
経済産業省「ロボット大賞」選考委員
世界文化遺産特別委員会 委員
※1974年以前を含め、日本の科学・技術発展史研究の第一人者。

基本スケジュール

13:10~14:40 講演
14:40~15:10 Q&A
15:20~16:50 現場見学
17:00~18:00 ライトパーティー(メンバー・訪問先幹部の方々との交流の機会)

※ご同業の場合、ご遠慮いただく場合があります
※ 誠に申し訳ありませんが、オンラインでのご参加は出来ません

新経営研究会

<http://www.shinkeiken.com>